

奈良県指定文化財調査票

調査日	2021 年	4 月	2 日	記入者	春日由広
調査者名	小倉	春日	仲谷	西田	

文化財名	五色椿				
種類	<input type="checkbox"/> 史跡	<input type="checkbox"/> 名勝	<input checked="" type="checkbox"/> 天然記念物	<input type="checkbox"/> 有形民俗文化財	<input type="checkbox"/> その他 ()
指定年月日	1957年(昭和32)6月13日				
所在地	奈良市白毫寺町				
所有者 管理者	白毫寺				
員数	1株				
時代区分					
樹木の場合	(樹木名) 五色椿			(樹齢) 約450年	
案内板の状況	あり				
公開	見学は自由に出来る。(要拝観料)				
保存状態	<input type="checkbox"/> 非常に良い	<input checked="" type="checkbox"/> 良い	<input type="checkbox"/> 普通	<input type="checkbox"/> 悪い	<input type="checkbox"/> 非常に悪い
	補足 ()				
当面の課題	特に無し。白毫寺の境内にあり、きれいに整備されている。				
今後の課題	五色椿の花の美しさの維持。寛永年間(1624年～1645年)に興福寺の塔頭・喜多院から移植されたとされる。樹高約5mで根元から80cmのところ幹が2分している。春になると大輪の八重で、白色、ピンク色、紅白絞り等の花が同じ木に咲く。これからも、白毫寺に訪れた人々を魅了して欲しい。				
その他 (由緒など)	五色椿は東大寺開山堂の糊こぼし・伝香寺の散り椿とともに「奈良の三名椿」として有名である。白毫寺は志貴皇子の山荘を寺院にしたのが始まりで、勤操(ごんそう、754年～827年)が高円山麓に建立した岩淵寺の子院であったといわれる。鎌倉時代に西大寺の叡尊が復興し、弟子道照が宋板一切経を納めたので、一切経寺ともいう。春には五色椿、秋にはハギが咲き、関西花の寺25カ所の1つ(第18番)である。				
コメント	案内板横の石段を少し登り、山門を抜けて長い階段を登ると境内にでる。ここから、東大寺・興福寺・奈良市街地・生駒山等が一望できる。寺は多くの文化財を所有している。特に、宝蔵の本尊阿弥陀如来の脇侍の勢至菩薩・観音菩薩の今にも立ち上がりそうなりズム感あふれる姿勢や、閻魔王像らが真剣に裁きを下している緊迫した臨場感あふれる様子を目の前で見学ができる。今後も、五色椿や多くの文化財を保存し、多くの人々に安らぎをもたらす寺であり続けて欲しい。				

奈良県指定文化財調査票(写真)

調査日	2021 年	4 月	2 日	記入者	春日由広
調査者名	小倉	春日	仲谷	西田	

文化財名	五色椿
------	-----

案内板	説明版
-----	-----



五色椿全体

五色椿



本堂

境内から山門を見おろす

